

終章

(1) 自己点検・評価を振り返って

今回の自己点検・評価活動においては、本会計大学院の教育研究、管理運営等の諸活動の状況について、認証評価機関の定める経営系専門職大学院基準に準拠して詳細に検証し、現時点での特色や強み、要改善事項、また将来的に想定される課題について可能な限り客観的に明らかにすると共に、今後とるべき方策について検討を行った。

本年度より、本会計大学院は単独で大学院大学としての運営を開始しているが、この機に改めて全ての関係者が共通の現状認識に立ち、現在そして将来に向けた具体的な改善策を検討するための基盤を作る上で、今回の自己点検・評価活動は非常に有意義なものであったと考えている。

自己点検・評価活動とその延長上にある認証評価は、本会計大学院が自らの理想的なあり方を追究し、実現していく過程での一つのマイルストーンであるともいえる。さらに今後は、自己点検・評価の結果を内部的な改善の資料とするだけでなく、本会計大学院の特色や取組みを広く社会に対して説明し、理解を得ていくためのツールとして活用していくことも必要であると考えている。

(2) 今後の改善方策、計画等について

序章でも述べた通り、本会計大学院は、2014（平成 26）年度に開設から 10 年目を迎える。これを一つの節目としてさらに将来的な発展を期するために、今回の自己点検・評価で把握された課題への対応は、まずもって速やかに行われなければならない。

今回把握された主な課題として、標準修業年限を超えて在学する学生の増加とこれに起因する収容定員超過傾向への対応、一方での入学者漸減傾向への対応、社会貢献事業の拡大や学生募集活動の改革を通じた更なる財政安定化の必要性、研究環境や図書資料の継続的な整備の必要性等がある。これらの課題への対応方針は、本報告書に記載すると共に、2014（平成 26）年度からの新中期事業計画にも反映し、今後 3 年間での改善・充実を想定して具体的な実施事項を明示している。今後、しかるべき場での議論を行いつつ、順次実行に移していく。

引き続き本会計大学院は、教育・研究活動はもとより、学生支援や事務組織の充実といった管理運営面も含めて、計画に基づく諸施策の実施、客観的な評価と改善という PDCA サイクルを重視し、継続的な改善に取り組む所存である。

今後ますます複雑化・高度化する社会のニーズを的確に捉え、制度や環境の変化に対応して、質の高い会計専門職業人を養成するという本会計大学院の目的は、この継続的な改善の過程を通じてこそ実現されるものと考えている。この目的を実現し、もって経済社会の発展に貢献するという使命を果たすべく、本会計大学院は不断の努力を続けていく。